

#### 4. 庄内西小学校PTAへの「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）11月17日（木）19時30分～

○場 所：庄内西小学校

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>今後のスケジュールについて、南校は北校より2年遅れで開校されるが、予定が早まることはあるのか。</p>	<p>お示ししておりますスケジュール（案）は、決まったものではなく、現在の想定になります。</p> <p>南校については、学校の事情だけでなく、候補地となっているせんなりこども園がどうなるのかという不確定要素も大きく関係してきます。今後、さまざまな要素を検討していく過程で、スケジュールは伸びることもあり得ますが、逆に早まることも考えられます。</p>
<p>南校が完成する頃には、今の保護者はほとんど関係が無くなってしまわないか。</p> <p>この学校再編は、まちづくりへの影響が非常に大きい。他市事例で、小中一貫校を新設したことにより、人口が増加したことはあるのか。</p>	<p>地域事情などが異なりますので、必ずしも参考になるわけではありませんが、他市の事例として、小中一貫教育を推進している京都市の京都御池中学校区では子どもたちの数が増加し、御所南小学校ではプレハブ校舎を増設して対応しています。箕面市の彩都の丘学園でも、毎年、子どもたちの数が増加しており、将来的には2,000人ほどの学校規模になることが見込まれ、校舎の増築などが検討されています。</p>
<p>説明資料の7枚目に示されている、学力、社会性、自立心については、是非伸ばしてほしいかと思う。</p> <p>今ある学校で「魅力ある学校」はめざせないのか。今、今日、明日、明後日の学校も大切だと考えているのだが。</p>	<p>現在でも、各学校においては「魅力ある学校」をめざして、さまざまな取り組みを進めています。例えば、庄内西小学校では、ユニバーサルデザインの授業づくりなどについて研究し、子どもたちにも丁寧に向き合っています。</p> <p>現在、庄内西小学校の児童数は少ない状況ですが、新しい学校になれば、子どもたちの数が増え、多様な人間関係の構築が期待できます。また、中学校の教職員も同じ校舎にいることから、より多くの大人が子どもたちを見ることができると考えています。</p>
<p>私の子どもは第七中学校に通っている。今の第七中学校はどういう状況か。スライドの中で示されたような学校になればいいと思っているが、今は他学年との交流などはほぼしていいと聞いている。小中一貫教育ですべての問題が解消されるとは思えない。</p>	<p>本市では、従前より、全中学校区において、小学校と中学校が連携するための取り組みを行っています。例えば、第七中学校区でも小学校高学年で一部教科担任制を導入しています。また、小学校と中学校で交流事業や情報交換なども行っています。施設一体型小中一貫校ができれば、より効果が上がると考えています。</p>
<p>小学校と中学校をひとつの場所に集めると、子どもたちにストレスがたまるのではないか。そうならば小学校と中学校を別々のまま、連携してほしい。校舎が離れていても、テレビ会議やマイクロバスでの移動などで、交流を深めることができると思う。</p>	<p>小学生と中学生が、お互いに我慢したり、委縮したりしないように、学年によって過ごす空間を分けたり、動線を確保したりするなど、さまざまな校舎配置の工夫を行うことが可能であると考えています。チャイムについては、小学校は45分、中学校は50分と授業時間が異なるため、例え</p>

<p><b>登下校について、校区が3倍になるので、箕面市が導入しているような、小型GPSの発信機を導入するなど、放課後の安全性についてもしっかりと考えてほしい。</b></p>	<p>ば、短いチャイムを鳴らす、小中の授業の開始が揃う時だけチャイムを鳴らすなど、鳴らし方の工夫を行っていきたいと考えています。</p> <p>本市では、PTA主体で通用門通過通報システムを導入している学校があります。箕面市の取り組みについては、参考とさせていただきます。</p>
<p><b>新しい学校では、先生の数は増えるのか。</b></p>	<p>教職員の人数は、学級数に対して定数が決まっています。現在の3つの学校の場合と、ひとつになった場合を比べると教職員の数は減ってしまいますが、施設一体型の場合、小学校だけではなく、中学校の教職員もいるので、子どもたちに関わる教職員数は単なる統合よりも増えると考えています。</p>
<p><b>学校内の危険箇所も増えるのではないか。</b></p>	<p>校舎の設計は子どもたちの安全を第一に考えて検討していきます。</p>
<p><b>先生が忙しくなるのではないか。</b></p>	<p>学校への人的支援については、今回の資料でお示ししたとおりですが、豊中型「地域とともにある学校」について、地域の方が関わりやすい学校、入りやすい学校をつくって、さまざまな方の力を借り、子どもを見守る大人を増やしたいと考えています。</p>
<p><b>先日、池田市立ほそごう学園の先生から、中学生が小学生を「うるさい」と怒鳴りつけること、保健室が一部の中学生の溜り場になって小学生が萎縮してしまうこと、中学生の英語のリスニングテストの際に小学生を教室に閉じ込めておくこと等が起こっていると聞いた。能勢町のささゆり学園のような広い敷地であれば良いが、庄内地域は狭い。地域性を考えて、施設分離型にはできないのか。</b></p>	<p>池田市立ほそごう学園に視察に行きましたが、子どもたちがしっかりと学んでいると感じました。現場の教員も工夫を重ねて、熱心に取り組まれていました。小中一貫校にも課題はありますが、教職員と一緒に、一つひとつ、解決策を検討していきたいと考えています。</p> <p>今回の提案は、さまざまな課題について、抜本的な改革をすることで、より良くしていきたいと考えています。</p>